

令和3年度(第72回)芸術選奨
選考経過

令和3年度(第72回)芸術選奨 選考経過一覧

部門	選考経過
演劇	<p>令和3年も新型コロナウイルスの感染拡大で演劇界は公演中止、中断など前年同様に大きな影響を被った。年後半にかけワクチン効果などにより公演が集中的に行われた。</p> <p>経過は次の通り。選考審査員及び推薦委員から、文部科学大臣賞候補者として13名、文部科学大臣新人賞候補者として14名の推薦があり、伝統芸能から現代演劇の劇作家、演出家、俳優等幅広い候補が並んだ。第一次選考審査会で、文部科学大臣賞には伝統芸能分野2名を含む5名、文部科学大臣新人賞は3名に候補者を絞り込んだ。</p> <p>第二次選考審査会では、候補者の業績について多様な角度から議論が重ねられた。文部科学大臣賞は、文楽「ひらかな盛衰記」「神崎揚屋の段」で恋人の出陣に臨んだ傾城梅ヶ枝の悲痛な思いを全身全霊で深々と表現した人形浄瑠璃文楽太夫・竹本千歳太夫氏が、切場語りたるべき力を発揮したとして審査員多数から高い評価を得て選出された。続いて文学座公演「昭和虞美人草」で原作を現代のロック好きの若者たちに置き換え、歴史から普遍性を引き出しながらナチュラルな作劇で観客をひきつける作品を書いた劇作家・マキノノゾミ氏を選出した。文部科学大臣新人賞は、実績と将来性をどう評価するかを基準に伝統芸能の演者と現代演劇の演出家が有力候補として残り容易には決めがたかった。こうした中で5月の歌舞伎座・舞踊劇「土蜘蛛」で凄愴な存在感と骨太な芸風を示した演技力が着実に古典歌舞伎に専心してきた成果として高く評価され、今後の舞台への期待も相まって歌舞伎俳優・尾上松緑氏の選出となった。</p>
映画	<p>映画部門では、選考審査員及び推薦委員から、文部科学大臣賞候補者として6名、文部科学大臣新人賞候補者として8名の推薦があった。第一次選考審査会では、それぞれの候補者の活動実績と、選考審査員及び推薦委員から提出された推薦理由に基づいて活発な議論がなされた。その結果、文部科学大臣賞候補者4名、文部科学大臣新人賞候補者4名に絞り込まれた。</p> <p>第二次選考審査会では、各選考審査員が、自分が推選する候補者について補足説明を行うとともに、それ以外の候補者についても所見を述べる形で、様々な角度から踏みこんだ議論が重ねられ、文部科学大臣賞には、妻を失った男の喪失と希望を、優れた脚本力と豊かな映画表現で再生への道を力強く描いた「ドライブ・マイ・カー」ほかの成果で映画監督の濱口竜介氏と、「信虎」「マスカレード・ナイト」での登場人物像造形に於(おい)て、特殊メイクにとどまらない役割を担い、常に人間の自由なイメージを次元を超えて形にする、特殊メイクアーティストの江川悦子氏を選出した。</p> <p>文部科学大臣新人賞には、「BLUE/ブルー」「空白」でリアルな人間描写を極めつつ、人間性への信頼を示し、それぞれに高い完成度を示した映画監督の吉田恵輔氏を選出した。</p>
音楽	<p>令和3年、音楽界は、前年より引き続き、とりわけ厳しい環境に置かれた。その困難を乗り越え、絶えることなく続けられた芸術家たちの意欲溢(あふ)れる活動が、社会に明るい灯をもたらすところとなり、また我が国の「文化力」の何よりの証(あかし)ともなったことについては、改めていうまでもなく、特筆に値する。</p> <p>選考審査員及び推薦委員からは、文部科学大臣賞候補として合わせて10名、文部科学大臣新人賞候補として11名の推薦があった。第一次選考審査会においては、各委員提出の推薦書面の検討に加え、選考審査員による厳正なる審査の末、それぞれ3名が最終候補に絞られた。</p> <p>各候補の業績の確認、精査を経て開かれた第二次選考審査会では、活発なる議論が交わされたのち、文部科学大臣賞1名、文部科学大臣新人賞1名がいずれも全会一致で選出された。</p> <p>文部科学大臣賞の妻屋秀和氏は、既に長年にわたり我が国を代表するバス歌手として活躍を続けてきた音楽家だが、ことに令和3年は、オペラの舞台をはじめ、演奏会においても、幅広い分野で大きな成果をあげたことが高く評価された。また、文部科学大臣新人賞の本條秀慈郎氏は、自らの連続リサイタルにおいて、我が国の音楽界のみならず、国際的なコンテクストに照らしても傑出した存在である高橋悠治という音楽家に真正面から向き合い、その音楽の核心部分に見事にスポットを当てた圧倒的な成果が目をつけた。</p>

令和3年度(第72回)芸術選奨 選考経過一覧

部門	選考経過
舞踊	<p>舞踊部門では、選考審査員及び推薦委員から、文部科学大臣賞候補者として17名、文部科学大臣新人賞候補者として16名の推薦があった。第一次選考審査会の結果、文部科学大臣賞は4名、文部科学大臣新人賞は5名に候補者を絞り込んだ。</p> <p>第二次選考審査会では、さらに審議を深めて、まず文部科学大臣賞にふさわしい候補者の中で推薦の多かった上野水香氏が満場一致で文部科学大臣賞の1名として決まった。「ボレロ」で見た特に卓抜した演技力が高く評価された。続いて、新国立劇場公演「白鳥の湖」のジークフリード役を演じた奥村康祐氏が、格調高い立ち居振る舞いに優れた演技力は文部科学大臣賞にふさわしいと高い評価を得て選出された。</p> <p>文部科学大臣新人賞では、同じく新国立劇場公演「白鳥の湖」のジークフリード役を演じた井澤駿氏の高度なテクニックと鋭敏な感性が高く評価され、氏への贈賞が決まった。</p> <p>令和3年はバレエが特に素晴らしく、結果として文部科学大臣賞、文部科学大臣新人賞いずれもバレエからの選出になったが、コロナ禍という困難に満ちた状況の中で尽力している他ジャンル関係者にも引き続き頑張っていたいただきたい。</p>
文学	<p>文学部門では、選考審査員及び推薦委員から、文部科学大臣賞候補者として14名、文部科学大臣新人賞候補者として11名の推薦があった。第一次選考審査会の結果、文部科学大臣賞は4名(小説家3名、俳人1名)、文部科学大臣新人賞は5名(小説家3名、詩人1名、俳人1名)に候補者が絞られた。</p> <p>第二次選考審査会で討議の結果、ほぼ全員の賛同を得て、次の受賞者が決まった。</p> <p>文部科学大臣賞には、中島京子氏、アキラ・ミズバヤシ氏が選ばれた。中島氏の「ムーンライト・イン」は、元ペンションでの男女4人の共同生活を、あたたかみのある筆致で描く。同じ作者の「やさしい猫」は、スリランカ人の男性と日本人の女性が築いた家庭が、困難な状況に追い込まれる。彼らをとりにくく人たちとともに社会意識にめざめる過程を、ていねいに描く感動作。多彩な現実に向き合う作者の姿勢が、高く評価された。</p> <p>ミズバヤシ氏の「壊れた魂」は、作者・水林章氏による邦訳。東京とフランスを舞台に、歴史の闇のなかを生き抜く人々の心の絆(きずな)をみずみずしい文章で描き出した。</p> <p>文部科学大臣新人賞には、堀田季何氏の句集「人類の午後」が選ばれた。多方向に伸びる野趣にみちた言語は、強い印象を残した。</p>
美術	<p>美術部門は、選考審査員及び推薦委員から文部科学大臣賞候補者15名、文部科学大臣新人賞候補者14名が推薦された。第一次選考審査会では、選考審査員が推挙した作家について推薦理由を述べ、さらに全ての候補者について作品及び推薦理由を慎重に審議した。その結果、文部科学大臣賞は7名、文部科学大臣新人賞は8名の候補者に絞り込んだ。第二次選考審査会では、第一次選考審査会で絞り込んだ作家の作品と業績について審議した。その結果、文部科学大臣賞3名、文部科学大臣新人賞3名の候補者に絞り、最終的に投票によって決定した。選考過程で、令和3年度の文部科学大臣新人賞候補は甲乙つけがたく、文部科学大臣賞よりもむしろ文部科学大臣新人賞2名とするほうが適当ではないかとの意見が出され、満場一致で賛同された。その結果、文部科学大臣賞は鷹野隆大氏、新人賞は山城知佳子氏ならびに田辺竹雲齋氏を決定した。大臣賞の鷹野氏は「鷹野隆大 毎日写真1999-2021」展(国立国際美術館)、新人賞の山城氏は「山城知佳子 リフレーミング」展(東京都写真美術館)、田辺氏は「北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2021」展ほかの成果が高く評価された。</p>

令和3年度(第72回)芸術選奨 選考経過一覧

部門	選考経過
放送	<p>放送部門では、選考審査員及び推薦委員から文部科学大臣賞候補者として16名、文部科学大臣新人賞候補者として10名の推薦があった。第一次選考審査会では活発な議論が交わされ、文部科学大臣賞候補者を6名、文部科学大臣新人賞候補者を4名に絞った。</p> <p>第二次選考審査会では候補者の作品を再視聴するなどして臨んだ各選考審査員から文部科学大臣賞の候補者を推挙してもらった。その結果、選考審査員全一致でTBSテレビプロデューサーの磯山晶氏を文部科学大臣賞に決定した。</p> <p>「俺の家の話」は数多くの作品を共に作ってきた宮藤官九郎氏脚本、長瀬智也氏主演の連続ドラマであるが、磯山氏がプロデュースしてきたなかで最高傑作であるとする選考審査員からの賞賛の声もあった。</p> <p>文部科学大臣新人賞の第二次選考審査では、異なる専門性をもった候補者が鼎立となる形となって選考が難航した。その中でひとり2票をもって投票することで事態は解決し、文部科学大臣新人賞には脚本家の安達奈緒子氏を選出した。脚本を担ったNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」は東日本大震災で心の傷を負ったヒロインが気象予報士となってまた故郷を新たな目で見直していくという物語である。言葉少ないヒロインの内面を描き切った筆力が高く評価された。</p>
大衆芸能	<p>大衆芸能部門では、選考審査員及び推薦委員から、文部科学大臣賞候補者14名、文部科学大臣新人賞候補者11名の推薦があり、第一次選考審査会で文部科学大臣賞は3名、文部科学大臣新人賞は6名の候補者に絞り込んだ。</p> <p>今回は寄席演芸や大衆音楽のほか、お笑いパフォーマンスやジャズ音楽家など多種多様な分野からの候補者が揃ったため、第二次選考審査会での議論は例年以上に白熱。音源、映像等の素材をできる限り視聴した上、無観客ライブの配信など、コロナ禍における公演の実態と有効性などについても、突っ込んだやりとりがあった。その結果、文部科学大臣賞に40年に及ぶ音楽活動の集大成である29枚組の大作アルバムを完成し、さらには有観客ライブで精力的なパフォーマンスを見せた佐野元春氏と、さらにもう一人、古希記念の全国公演でたゆまぬ落語の研鑽の成果を示した上方落語の雄・桂南光氏が選ばれた。文部科学大臣新人賞は文部科学大臣賞以上の接戦となり、いずれ劣らぬ有力候補が並ぶ中、演奏と創作の両面で類い稀(まれ)な音楽センスを見せた藤井風氏が選ばれた。</p>
芸術振興	<p>芸術振興部門では、選考審査員及び推薦委員から、文部科学大臣賞候補者として11名、文部科学大臣新人賞候補者として11名の推薦があった。第一次選考審査会において、選考審査員は芸術振興部門の趣旨にふさわしい候補者を、文部科学大臣賞から4名、文部科学大臣新人賞から4名に絞り込み、第二次選考審査会に臨んだ。いずれもコロナ禍における取組みがこれまで以上に顕著であったが、慎重な議論の結果、文部科学大臣賞にダンサーの川口隆夫氏、文部科学大臣新人賞にパフォーマンス・プロデューサーの中村茜氏を選出した。</p> <p>「コロナ禍における表現者としての活動」ほかのイベントのディレクターや共同企画者を務めた川口氏は、コロナウイルスを巡(めぐ)る差別や偏見が進む中で、ウイルスが単に敵ではなく、人類と共生してきた歴史に着目した対談やパフォーマンスを行うなど、ダンスという分野を超えた取組みが評価された。一方、分野を越境するプロデュースを精力的に仕掛けてきた中村氏は、動画配信事業「THEATRE for ALL」を立ち上げ、多言語対応や手話通訳、バリアフリー字幕など「誰もが、いつでも、どこからでも繋がれる劇場」の実現に尽力した点が評価された。</p>

令和3年度(第72回)芸術選奨 選考経過一覧

部門	選考経過
評論等	<p>評論等部門では、選考審査員及び推薦委員から、文部科学大臣賞候補者として20名、文部科学大臣新人賞候補者として13名が推薦された。第一次選考審査会では、推薦書類の内容を踏まえて慎重に審議した結果、文部科学大臣賞については6名、文部科学大臣新人賞については2名の候補者を絞り込んだ。</p> <p>第二次選考審査会では、各候補者の著作をめぐって活発な議論を交わした結果、文部科学大臣賞については、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのフランスと日本における美術思潮をめぐり、両国間の相互的な交流の様相を多角的に描き出した「移り棲む美術 ジャポニスム、コラン、日本近代洋画」を著した三浦篤氏が多くの選考審査員の評価を得て選出された。文部科学大臣新人賞については、同賞にふさわしい候補者を総合的に検討した上で、従来のアメリカ映画史では論じられることが少なかった幾多の事象を取り上げて興味深い論考を展開した「〈アメリカ映画史〉再構築 社会派ドキュメンタリーからブロックバスターまで」の遠山純生氏が選出された。</p>
メディア芸術	<p>メディア芸術部門では、選考審査員及び推薦委員から文部科学大臣賞候補者として11名、文部科学大臣新人賞候補者として17名が推薦された。第一次選考審査では各ジャンルの選考審査員がそれぞれの作品の情報や推薦理由を共有し、この時代に及ぼした影響、それぞれのジャンルでの役割などを中心に多岐にわたる議論を行い、文部科学大臣賞を11名から4名、文部科学大臣新人賞を17名から7名に候補者を絞り込んだ。</p> <p>第二次選考審査ではさらに広く深い議論が行われ、最終的に文部科学大臣賞としてはゲーム部門から分断された世界でモノを運ぶことによって人々をつなぐ画期的なゲーム「DEATH STRANDING DIRECTOR'S CUT」を制作した小島秀夫氏がその卓越した作家性、高い技術、テーマの今日性などから選ばれた。また文部科学大臣新人賞には早くからジェンダーに関わるテーマをとりあげ、徳川幕府の将軍を女性にした歴史漫画「大奥」を完成させ、またゲイカップルの日常を描いた「きのう何食べた？」などを発表し続けているよしながふみ氏が選ばれた。</p>